

二〇二〇年三月二〇日

大橋を渡れば故郷春の潮
鐘楼門くぐる一步に初桜
せせらぎの樂に和すごと笹鳴ける

うつぎ
ぽんこ
せいじ

二〇二〇年三月一九日

石鯪玉幼の小さき一息に
柔らかな日差しに馬鈴薯植へにけり
春日燦爛へ出たまま昏るるまで
受験絵馬合格と書く幼き字
春の野にサックス復習ふ部活女子
糸桜袴乙女ら撮り合へる
彼岸入り供花に加へる庭のもの
願ひ込め柄杓に満たす春の水

素秀
三刀
明日香
なつき
はく子
もとこ
こすもす
なつき

二〇二〇年三月一八日

寺町の路地に迷ひぬ沈丁香
暖かいだけで嬉しいひと日かな
青空を吾がものにして唸り風
うぐいすの声の間近に耕しぬ

なつき
明日香
はく子
三刀

二〇二〇年三月一七日

竹秋の嵯峨野路巡る人力車
春彼岸無沙汰詫びつつ香を焚く
濃紅梅父母の遺愛の庭になほ

菜々
たか子
もとこ

二〇二〇年三月一六日

春うららぽんぽん船の小気味よく
石窟の弥勒菩薩へ春日差す
次の歩に二の足を踏む春の泥
ほまち田の一枚菜の花浄土かな
ご城下の水路は四通風光る

はく子
ぽんこ
たか子
なつき
菜々

二〇二〇年三月一五日

お迎へのママへと土筆一握り
偕老の仲良くかがみつくし摘む

なつき
はく子

二〇二〇年三月一四日

鐘一打余韻嫋々山笑ふ
ご城下をミニSLや山笑ふ
竹の秋里山の裾明るうす
初蝶の高きに風の変はりたる
囀りに負けじと樹下に姦しく
卓うららマーマレードは夫手製

ぽんこ
たか子
菜々
素秀
たか子
もとこ

毎日句会みのる選・二〇二〇年三月二二日